

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和4年3月23日（水）
午後1時39分 開会
午後2時54分 閉会
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 委員長 上田 伴子
副委員長 芹澤 正志
委員 浅田 徹、荒木 慎太郎、
石田 清、竹中 理、
福田 嗣久
- 4 欠席委員 太田 智博
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼調査係長 小崎 新子
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 上田 伴子

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2022年3月23日(水) 予算決算委員会終了後

場 所：第2委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項の現況について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

4 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2022. 3. 23

職 名	氏 名
委員長	上 田 伴 子
副委員長	芹 澤 正 志
委 員	浅 田 徹
委 員	荒 木 慎大郎
委 員	石 田 清
委 員	太 田 智 博
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久

【当局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課長	平尾 喜彦
都市整備課長	石田 敦史	日高振興局 地域振興課長	中川 光典
		出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
		但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

8名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主幹兼調査係長	小崎 新子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2021. 11. 19

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関する事

午後1時39分開会

○委員長（上田 伴子） 皆さん、こんにちは。ちょっと早いですけれども、おそろいになっておりますので、ただいまから交通網対策等調査特別委員会を始めたいと思います。

座って失礼します。

前回あってから、そんなに時はたっていないので、あれですけれども、少しの期間で変化のあるところなどを、またいろいろと当局の皆さんには教えていただきながらしたいと思います。まん延防止等重点措置も解除になったんですけれども、やはりオミクロン株は大変感染しやすいということで、まだしばらく感染対策を取りながらのいろんな会議になってくると思いますが、気をつけながらしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の委員会に当たりまして、太田委員から欠席届が提出されておりますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項に入ります前に連絡させていただきま。委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用して発言いただきますようお願いいたします。また、最初に課名と名字をお願いします。

まず、委員会の所管事項の状況についてを議題といたします。

委員の皆さんはSide Books上のフォルダ、交通網問題対策等調査特別委員会の3月23日の中に配信しておりますので、資料をご覧ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） それでは、資料の2ページをご覧くださいと思います。まず、北近畿豊岡自動車道の事業促進ということで説明させていただきます。12月にも説明させていただきました、その後の状況の変化等について、主に説明させていただきます。

概要のところですが、まず現在、事業として動い

てますのが、豊岡道路と豊岡道路（Ⅱ期）ということになります。豊岡道路につきましては、12月にも補正予算の措置がありまして、現在、トンネル工事であったり、橋梁の上部工等の工事が鋭意進められております。この道路につきましては、ご存じのように、2024年の秋に開通予定ということで、既に発表になっておりまして、それに向けて順調に工事が進んでいるというふうにお聞きしております。

次に、豊岡道路（Ⅱ期）ですが、こちらも2020年度に事業化されまして、今年度については、調査だとか予備設計が現在進められております。12月には補正予算もつきまして、橋梁の予備設計、それから地質調査業務等が進められてるところです。現在、道路の幅ぐい、どれだけ道路の幅が必要かというような幅ぐいの設置に向けた、地元の役員等への説明に順次入っているというふうにお聞きしております。それから、来年度の話になりますが、今、予定としましては、2022年度が事業化になって3年目ということになりますので、恐らく実際に工事にかかるというような、起工式というようなことがあるんじゃないかということで、豊岡市のほうでも次年度の予算については確保をさせていただいておるような状況です。

それから、ずっと一番下に下りまして、参考のところを書かせていただいております。12月にも報告をさせていただきました日高豊岡南道路の日高町山本地内ののり面崩壊箇所の本対策工事につきましては、現在、契約の途中でということで、それができ次第、恐らく4月以降になるかと思いますが、工事に着工されるというふうにお聞きしております。

続きまして、3ページをお開きください。山陰近畿自動車道の事業促進になります。こちらも概要のところですが、浜坂道路Ⅱ期につきましては、こちらも北近畿豊岡自動車道と同様に12月に補正をいただきまして、鋭意工事が進められてるところです。

その2番目の竹野道路につきましては、今年度事

業化になったということで、そこに書いてますように、当初は測量だとか調査ということで進めてましたが、12月に補正予算の措置がありまして、その後、道路の詳細設計であるとか橋梁の予備設計、それから、トンネルの詳細設計等が進められておるといふふうに聞いております。それから、今月に入ってからですが、竹野町の林地区、坊岡地区、それから豊岡の江野、伊賀谷、岩熊におきまして、測量、それから地質調査に入るといふことで、既にボーリング調査等入っているところもあるようにお聞きをしております。

それから、3つ目の城崎道路ですが、仮称城崎温泉インターチェンジから仮称豊岡北ジャンクション、インターチェンジまでの間ですが、これにつきましては、去る2月25日に県のほうで都市計画決定がなされておりました、山陰近畿道の城崎豊岡線ということで、都市計画決定がされております。今後は事業化に向けて、さらに要望活動等、一生懸命取り組んでいきたいといふふうに考えております。

それから、次の4ページになりますが、7番のその他のところにちょっと書かせていただいております。山陰近畿自動車道の整備推進決起大会ということで、これは今年の1月19日の日にウェブ開催ということで行われております。例年は東京のほうに集まりまして、兵庫県、京都府、鳥取県の関係者等で盛大に行うわけですが、今年度につきましては、新型コロナウイルスの感染予防ということで、ウェブでの開催となっております。東京、兵庫、京都、鳥取ということで、会場を4つに分けて、ウェブで参加をさせていただいております。その中でも、国土交通大臣のほうからは、この道路につきましても一日も早い全線の完成を目指したいということで、力強いお言葉もいただいております。

5ページにつきましては、現時点での北近畿豊岡自動車道と山陰近畿自動車道の早期整備要望の内容を記載させていただいておりますので、ご清覧願いたいと思います。

建設課からは以上です。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） それでは、今回の説明につきましては、11月と12月に当特別委員会で説明いたしました事務概要から、赤字で記載しておりますとおり、進捗のあった項目や内容、それと委員会のほうから、特に竹野南地区での新交通モードの実証実権とチクタクの関係についてを中心に説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、6ページのほうをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上です。概要及び進捗状況につきまして、特に2番の兵庫県を中心とした但馬空港のあり方懇話会についての補足の説明をさせていただきます。

第4回の但馬空港あり方懇話会が明日3月24日に開催されます。本来でありましたら、この懇話会で今年度末に活性化策と懇話会の取りまとめがなされ、2022年度以降に県の方針決定がなされる予定でありました。これまで第1回目の2020年2月の6日に開催されてから2年余りが経過したところですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今なお終息の見通しが不透明な状況であります。

一方で、兵庫県では、本年2月の15日付で県政改革方針、令和4年度実施計画、行財政運営方針が策定されまして、新年度予算でもプレス発表がありました。その中で、大型投資事業の但馬空港の機能強化については、あり方懇話会での議論を踏まえ、但馬地域の振興のために、空港において取り組むべき施策については、慎重に検討との見直し決定の検討がなされています。

懇話会ではこうした状況を鑑みて、今後の航空需要の回復と、国内航空会社の経営状況が回復し、新たな投資や路線開発が実現可能性を帯びた段階で、中長期的な視点の下で、これまでの間は航空事業の回復を図る取組として、但馬、丹後地域の振興に資する空港の活性化策を、県及び地元が一体となって取り組むことが必要であること。というようなことで、今回の懇話会では、中間報告の取りまとめとされることに修正され、今後の懇話会での開催につい

ては、航空需要の回復を見据えた上で検討がなされるような、そのような動きになっております。

なお、参考といたしまして、今年度の2月末までの但馬空港の利用状況を記載しております。12月の特別委員会でも、4月から12月までの利用状況を申し上げました。今年度の4月から2月の利用状況は、利用者は1万8,522人、利用率は33.3%、前年度との比較では、利用者は増えているような結果となっておりますが、コロナの影響を受ける前の2019年度の利用者は同時期で3万7,928人で、1万9,406人の減、利用率も67.2%で33.9%の減というような、大きく低迷をしている状況です。新型コロナウイルスの影響を相当受けているということがうかがえると思います。

続いて、7ページのほうをご覧ください。バス交通の充実と利用促進です。概要及び進捗状況ですが、1点目の主要バス路線の維持の関係ですが、2022年度4月以降の市営バスイナカーの運行計画や、2点目で説明いたします神鍋高原線上限200円バスの協働実証運行から、距離割運賃の路線バスに移行するための運賃改定、さらに、全但バスの2022年春のダイヤ改正を議題とした第58回の市地域公共交通会議を2月の16日に開催しております。

続いて、2つ目の神鍋高原線上限200円バス協働運行の運行実施と年度内終了についてです。

既に昨年12月に、この特別委員会で現状と今後の方向性についてご報告をさせていただきました。結果として、2月16日開催の市の地域公共交通会議での路線バスの運行計画、ダイヤ本数であったり、改定料金の設定の変更案の承認を受けまして、既に運行バス事業者から国への承認申請を行っており、現在、国からの承認待ちの状況となっております。この承認によりまして、4月からの運行につきましては、上限運賃200円から距離割運賃の路線バスに移行され、運賃も江原駅から稲葉までが710円に改定されます。また、運行本数も通勤通学時間帯は確保される中で、平日ですと往復現行24便から16便に減便されることとなっております。

なお、この協議会関係につきましては、2月17日木曜日に開催されました協議会の理事役員会合同会議において、今年度限りでの協働運行を終了する方針を下され、先週3月16日水曜日に、協議会臨時総会で承認されたところです。既に2月24日付の協議会発行のチラシでも、市民向けに4月移行の予定時刻表と予定運賃について周知がなされているところです。

続いて、8ページのほうをご覧ください。4つ目のチクタクの現状と課題です。

まず、現状です。市が運営しております有償旅客運送事業で、イナカーの運行継続基準を満たさなくなった路線の公共交通手段を、地区の要望でもってチクタク運行をしておりますが、2011年、平成23年4月から現出石奥山線を皮切りに、本格運行を開始したところです。現在、このチクタクは市内4地区で運行しております。運行に必要とされる道路運送法第78条の許可を市が取得して、各地区の協議会へ運転手の運行経費を主に業務委託し、運営しております。なお、車両は市が購入し、各協議会へ無償貸与しております。また、維持管理経費、燃料費であったり、保険料、車検経費、車両修繕費も市が負担しております。

運行の仕組みですが、利用者が前日までに地区内の事務局のほうに予約を入れられて、地区内で決められた場所をフリーに乗降するシステムを取られています。距離割での運賃で100円、150円、200円といった料金設定とされております。

なお、運転手は一種免許でも認められておりますが、国土交通大臣認定の講習を年1回受講することが要件となっております。課題といたしましては、運転手の確保や受付等の運営事務を地区の協議会が担っておられることから、今後の高齢化や人口減少に伴う担い手不足などに、継続性に不安を持っているところです。冒頭申し上げましたが、チクタクの経費は市が負担しておりますが、運転手の確保や予約などの事務運営については、地元でしていただくことで相互の役割分担をしております。したがって、市といたしましては、運転手の確保につい

ては、何とかその地区内でカバーしていただきたく
お願いしているところです。

次に、地域実情に応じた新たな交通モードの検討
についてです。

前回の特別委員会でも説明をさせていただきました
ましたが、竹野南地区でイナカーに代わる新交通モー
ドの実証試験、いわゆる乗り合い型タクシーの実証
試験を、昨年11月15日から本年2月の10日ま
での約3か月間実施し、結果49件の利用がござい
ました。実証実験の期間が終了し、利用者登録をさ
れた127名の方を対象にアンケート調査を実施
いたしました。そのうち約半数の64名の方から回
答をいただきました。その中でもバス停での乗降が
なく、ドア・ツー・ドアとは言えないまでも、家の
近くでの乗り降りであるので、すごく助かっている
といった感想や、また、豊岡エリアまで乗換えなく
移動できるから、大変便利だといった感想を持たれ
ていました。ただ、予約をすることが面倒であるこ
とや、料金的に少し高いイメージというようなご意
見も伺っています。ただ、通常のタクシーを考えま
すと、往復で3,000円はありがたいというよう
なご意見も伺っております。

このアンケートの結果を基にして、3月の8日に
竹野地区協議会長、竹野南地区のコミュニティの役
員、トヨタモビリティ、また、有識者との協議がな
されて、実証試験を本格実施に移行する今後の方向
性の確認がなされ、結果、本年9月末でもって、地
元地区の了承の上、イナカー竹野南線は廃止し、1
0月以降は乗り合い型タクシーでの運行を実施す
ることとなりました。

ただ、課題といたしましては、森本から豊岡市街
地への区間は現行の路線バスの運行経路と重複し
ておることから、本格運行までには、国や路線バス
運行事業者との承認、調整が必要であること、また、
今回の実証は、70歳以上の地域コミュニティが認
めた移動困難者を対象といたしておりますので、7
0歳までの利用者への取扱いであったり、現行の交
通手段のほうが便利と理解されておられる方も中
にはおられ、今後そういった本格実施までには、地

区内での詳細な調整が必要であるというふうにか
えております。

この事務概要のほうにちょっと記載はいたして
おりませんが、少し口頭で報告させてください。2
022年度から始まります豊岡ノーマイカーデー
の拡充実施についてお知らせをしたいと思います。

地球温暖化CO₂排出量の削減、それと公共交通
の利用促進、日常生活の健康増進を目的に、バス運
行事業者の協力を得て実施しております毎月第2
水曜日のノーマイカーデーの取組を、2022年度
からは3年間の実証試験として第4水曜日にも拡
大し、実施をしようとするものです。1日500円
での乗り放題の全但バスノーマイカーデーフリー
チケットを、市内各営業所か市内運行の路線バス及
びコバスの社内で購入いただくと、市内の全路線バ
スとコバスに乗車できることに加え、来年度からイ
ナカー、チクタクでも乗車できることといたしてお
ります。ただし、市外に乗り越す場合は乗り越しの
通常運賃が必要となってまいります。なお、これま
でどおり、子供料金は設定しておりませんので、大
人、子供問わず、お一人500円といたしております。
また、ノーマイカーデーの日に、このフリーチ
ケットを全但バスの協賛店で提示いただくと、各店
舗での特典を受けることができます。実施は周知期
間を考慮して5月からといたしております。4月に
ついては、従来どおり第2水曜日のみとなります。
バスについては以上です。

9ページのほうをご覧ください。鉄道交通の利用
促進です。概要及び進捗状況のほうを見ていただき
たいと思いますが、3つ目のその他、参考として、
前回の特別委員会での説明以降、次ページにまたぎ
ますが、3点上げさせていただいております。

まず、JR西日本、長谷川社長の会見の件です。
これは、昨年12月に経営が悪化し、路線維持が難
しくなっているローカル線の中で、特に1日当たり
の輸送密度が2,000人以下の区間を最優先に見
直すことを示唆されました。あわせて、経営改善と
して、本年10月をめどに支社機能を統合すること
も発表されております。特に、本市に直接的に影響

のある現在の福知山支社が近畿統括本部に統合されることです。これまで身近に要望活動や多岐にわたる事業調整を福知山支社と実施してまいりましたが、今後、統括本部との調整となると、対応の遅れであったり、綿密な調整が図れるか、危惧しているところ です。

10ページのほうをご覧ください。また、2月での長谷川社長の会見では、さらに1日当たりの輸送密度2,000人以下の区間が公表され、今後は区間ごとの収支も公表し、鉄道以外の交通手段を地元自治体と検討したい旨も示唆されておりました。ちなみに2020年度の輸送密度の低いランキングで、但馬管内の区間で申し上げますと、20番目の山陰線、城崎温泉駅から浜坂駅間の区間39.9キロが506人、23番目の播但線、和田山駅から寺前駅の区間、36.1キロが714人、28番目の山陰線、浜坂駅から鳥取駅までの区間、32.4キロが798人、39番目の山陰線、福知山駅から城崎温泉駅の区間69.5キロが2,006人という状況となっております。

この件については、副委員長の芹澤議員が一般質問の中でも触れられておられました。市といたしましても、公共交通を利用している市民や来訪される観光客等の利便性を低下させ、さらなる利用者の減少を招くものと考えております。こうした課題については、単独での活動ではなく、広域的な活動が必要であると考え、今後、必要な公共交通の維持や利便性の向上のため、現在、府、県及び沿線自治体で構成されます各期成同盟会との連携を密にしていきたいというふうに考えております。

次に、JR豊岡駅、みどりの券売機プラスの設置についてです。既に2月の24日にみどりの窓口が廃止され、2月25日よりみどりの券売機プラスが導入されております。これは、従来のみどりの窓口同様に、乗車券、在来線の特急券、新幹線特急券、定期券などの購入と切符の払戻しも可能であります。専用オペレーターの案内によって操作不安が解消される券売機です。なお、非常時に備え、駅員は待機されるとされておる状況です。ただ、高齢者な

ど、機器操作に慣れていないお客様がある場合は、どうしても混み合う場合があつて、苦情を受けていることも伺っております。

3つ目として、新型コロナウイルス感染症拡大による事業継続支援についてです。今議会におきまして、第22号議案、令和3年度一般会計補正予算(第19号)で提案し、予算決算委員会建設経済分科会で議案審議をいただいております。

まず、京都丹後鉄道の運行管理事業者のWILLER TRAINS株式会社に対しての事業支援については、12月議会のこの特別委員会でも説明しておりますが、最終の負担額が1,030万3,000円に確定いたしましたので、ご報告いたします。内訳といたしましては、2020年12月から2021年3月末までの397万3,000円と2021年4月から10月21日までの633万円の合計額です。いずれも財源は地方創生臨時交付金を充てております。

次のJR竹野駅乗車券類等簡易販売の業務継続支援140万円についてです。JR竹野駅は、無人化を回避するため、利用者の利便性向上と観光PRを目的に、かねて乗車券類等簡易販売業務をたけの観光協会に委託しております。市の委託料のほか、JR西日本からの販売手数料収入でもって運営されておりますが、昨今のコロナ禍により販売手数料収入が大幅に減収し、経営不足分を協会自らが負担し、業務維持に努めていただいております。引き続き利便性の向上と観光PR事業が努められ、地域活性化につながることから、今回JRからの販売手数料収入の減少相当額を支援負担としております。

以上、都市整備課からの説明を終わります。

○委員長(上田 伴子) ありがとうございます。

説明は終わりました。

今までの説明の中で、質疑や意見はありませんか。

○委員(福田 嗣久) よろしいか。

○委員長(上田 伴子) どうぞ。

○委員(福田 嗣久) 二、三聞かせていただきます。

まず、但馬空港のあり方懇話会の結論で踏まえて、県の方針は行革で議論を踏まえて慎重に検討とい

うのが、検討されましたけど、あれ、どうだったいな、航空法の改正で今の但馬空港の延長、いつまでに工事着手せんのかいな。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○都市整備課長（石田 敦史） 先ほど福田委員がおっしゃってるのが、RESAの航空法施行規則の改正に伴います安全区域の……（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）滑走路端の改正だと思いますが、これは、令和8年度中に実施設計に着手しているというのが条件でございます。ですので、令和9年3月31日までが一応期限となっております。

○委員（福田 嗣久） はい、分かりました。

それと次は、ノーマイカーデーの話を聞かせていただいて、本会議でも聞かせていただいたんですけど、以前からせめて月2日にせなあかんでいう話はしておりまして、ありがたいことやなと思って喜んでおりますけれども、その中の説明でどうおっしゃいましたな、チクタクとかイナカーとか、乗り継ぎも、これか、そういうことですか。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○都市整備課長（石田 敦史） これまでは全て豊岡市内の路線バスだけを対象にいたしておりました。今回は路線バスからの乗り継ぎであったりとかってということで、いわゆるイナカー、それよりも小さいチクタク、そちらにも乗れるようなということで、市内の一応のバスに関連する乗降については、この500円で対応ができるということになっております。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（福田 嗣久） そうすると、例えばの話、但東町の薬王寺からイナカーで出合に出てきました。出合から豊岡病院まで行きました、帰ります。これも全て、その日は500円でいけるちゆうことか。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○都市整備課長（石田 敦史） まず、先ほど説明でもちょっと申し上げてたんですが、この500円のフリーチケットについては、市内の全但バスのまず各営業所、それと路線バスの……（「バスの中ね」と呼ぶ者あり）の車内と市街地循環バスのコバスで

の販売になっております。したがって、チクタク、イナカーをまず乗ってとなると、フリーチケットの購入ができませんので、大変申し訳ないんですが、事前に購入を、各最寄りの営業所で購入していただくことが……（「なるほど」と呼ぶ者あり）まず必要なというふうには考えてます。

○委員長（上田 伴子） 大変だな、それは。

どうぞ。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。ちょっとその仕組みを聞いとかと、また、話をしあげんらんので。

○委員長（上田 伴子） いや、そうですね。

○委員（福田 嗣久） それで、もうちょっと先に言っちゃうわ。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（福田 嗣久） どれだったいな、ちょっと、どうぞ先に。

○委員長（上田 伴子） いや、今のことに関連して、チクタクの、今、範囲内の人たちが購入するには事前に買わんらんってということだけど、それ以外の方法で、その地元で購入できるような方法は可能、例えば振興局辺りとかで取扱いを委託するとか、そういうことはできないわけですね。

どうぞ。

○都市整備課長（石田 敦史） そもそもこれは豊岡市から、まず運行事業者であります全但バスさんのほうに補助金として執行していこうと思っております。あくまでやはり全但バスさんの営業所であったり、そういった関連するところでないと、購入ができないようなシステムになっておりまして、ご意見はいろんなことで恐らく出てくるだろうなと思っておりますので、これ、取りあえずのところ、来年度から3年間の実証といたしておりますので、またいろんな意見を伺った中で、次年度以降っていうんでしょうか、また年度の途中でも改定ができるのであれば、検討していきたいというふうには考えております。

○委員長（上田 伴子） 分かりました。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（福田 嗣久） 竹野の新交通の実証実験ですけども、さっき、おおむね好評ということでしたし、喜んでおられるというのはよく分かりました。それで、料金が少々高いっちゅう話もされたと思うんですけど、少々高いっていうのは何ぼやったいな、それは。

○委員長（上田 伴子） 往復で3,000円。

○委員（福田 嗣久） 往復で3,000円、もうええわ。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。
荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） ノーマイカーデーのことで少しだけお伺いします。

500円ですごいありがたいなと思うんですけども、水曜日に限定されてるんですけど、例えば土日とかじゃなくって、この水曜日に限っておられるのは何か理由があったりだったりとか。あとターゲットにされてる客層といたしますか、どういった方々に乗っていただくことを想定しての第2、第4水曜日なのかなっていうの、ちょっとお伺いできますか。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） ちょっと今、荒木委員がおっしゃられてたのは、今までは第2水曜日を月1回限定でやっておりました。今回は、2022年度からは、この毎月第2水曜日に加えて第4金曜日というふうに今度、追加、拡大しようとしております。もともとは第2水曜日っていうのがとにかく、どういったらええんでしょう、全但バスさんの意向を中心に、利用者の意向も踏まえた中でこれ設定されたというふうに伺っています。今回の豊岡市のほうで拡充したい第4金曜日っていうのが、大体週末のサラリーマンの方、それも月末となると、少しのいろんな職場での懇親会であったりとか、市内でのそういった飲食店がにぎわうような、そういったことも含めて、今回、第4金曜日を追加させていただいています。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（荒木慎太郎） すみません、ありがとうございます

います。以上です。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。
竹中委員。

○委員（竹中 理） 最後の10ページか、みどりの券売機のプラスっていう、これは今までと何が違う、違うんかなちゅうか、何かちょっとよく分からへんなと思うんで。

○委員長（上田 伴子） みどりの窓口があったのがなくなるんや。（「人がおらんやろ」「人がおらんようになった」と呼ぶ者あり）
どうぞ、石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） これまでもみどりの券売機っていうのは、豊岡駅には設置されておりました。ただ、そこではオペレーターのモニターも映っての操作案内っていうのはありませんでした。今回の券売機プラスっていうのは、駅員さんが映ってこういうふうにしてくださいねっていうふうなことを、映像でもってご案内をしておるといふふうなことになってますので。

ただ、先ほどから言っておりますとおり、なかなかうまく高齢者の方の利用となると、操作のボタンでどこを押すんだとかっていうようなことなど、いろんな混乱があるようなことを伺っております。豊岡駅の副駅長ともお会いして、そんな話を聞いたんですが、どうですかというふうに聞くと、やっぱりいろんな苦情を承るとるというようなことを聞いております。スムーズに操作ができないので、どうしても混雑してしまう。お急ぎの方がおられたら、すぐ次の電車に乗りたいのになんていうふうなところで、仕方なしに改札に通って、車内で切符を買われるような、そんなことにつながっちゃっているというふうなことも聞いたところです。

○委員長（上田 伴子） そうだよな。
どうぞ。

○委員（竹中 理） いいですか。ということは、豊岡駅のいわゆる人間で対応される方はいなくなって、全国的な、何ていうか、そういった本部みたいなところがずっと対応されるっていうことではないんですね。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） 駅員さんの、モニター越しにおられる画像で映つとる駅員さんは、豊岡駅内の職員っていうふうに聞いています。

○委員（竹中 理） 職員さんが、ああ、そうなんですか。

○都市整備課長（石田 敦史） はい。ただ、券売機を置くことによって、やっぱり職員の人員削減、経費節減っていうふうなところが狙いのようにあります。そのように伺っております。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（竹中 理） 最後。それは、豊岡駅だけじゃなくて、例えば城崎温泉駅とか江原駅とか、そういったところも今後、可能性としてはあるんですか。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） 副駅長とお話をさせていただいた際にも、今後この券売機プラスをどう普及されていくんですかねっていうふうな話もちよつと確認させてもらいました。そういったしますと、城崎温泉駅では恐らくそこまでは考えてないというようなお話でした。やはり観光を目的にされておるお客さんというのが相当の量おられるので、それを入れてしまうと、やはり混雑にまた混雑をというふうなことになるので、そこは、城崎温泉駅までは今、検討はしていないというふうなことでした。

ただ、今、江原駅については、駅員さんが常駐、あるいはシルバーさんか誰かが恐らく委託されて常駐されておるんですが、場合によつたら、江原駅については今後の検討をしていくような、そんな話はなされてました。以上です。

○委員（竹中 理） はい、分かりました。オーケーです。

○委員長（上田 伴子） ほかはありませんか。

石田委員。

○委員（石田 清） J R西の社長さんの会見で、経営悪化により路線維持が難しくなっていると、さらっと書かれてるんですけども、この経営悪化っていうのは短期的な話だったんでしょうか、長期的な話だったんでしょうか、まずそれを。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） 今の話の中では、今の現在のコロナの影響を受けている状況なんですけれども、今後の話の中では、このコロナ前とコロナ後も含めてだと思いますが、近いうちに路線ごとの収支の経営状況も公表したいというようなことを確認はさせていただいてます。

○委員長（上田 伴子） 石田委員。

○委員（石田 清） 多分、コロナのを受けてなんだろうと思ってたんですけども、今、石田課長のほうが言われますのは、コロナ前とコロナ後はちょっと違ってくるんじゃないかと、再度見直そうというような話なんですけども、まず、短期的な経営の話ですと、先ほど見直したいと言われてた路線です、ね、これ、はっきりと言って兵庫県の半ば、北部、全て山陰線、重荷になって、鳥取に行くんだつたら姫路回りで行ってくれと言わんばかりですね、これ。はっきりと言って、J R西の頭の中であれば、ここら辺の鉄道っていうのは要らんのだと、それを言わんばかりに、これ長期の話になってる。経営の話と見直す路線の話っていうのは、これ、ちぐはぐであつて、しかも見直し路線のほうに、J R西さんの頭の中がいっぱいになってるというような感じがしましてね。これ前々からの話なんですけども、抜本的な本当の対策が必要なんじゃないかなと。今のように、観光客のキャンペーンをといつてやりますけども、そうじゃなくつて、もうJ R西の頭の中では全て切捨てと、極端に言えばそういう話があるんじゃないかなと。豊岡市だけじゃなくつて、もう少し大きな範囲でJ Rさんの経営の在り方、考え方、もう一遍確かめた上で対応策を練らにやいけないんじゃないかなというふうに思います。これ感想ですけども、申し上げておきます。

○委員長（上田 伴子） 何かあれば。

石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） 今、石田議員がおっしゃられるように、恐らく長期的な立場に立つてでも、路線の本当の見直し、そこら辺にやはり手を加えたいというふうなことが本音だろうと、私自身も

思います。今後、JRがそこを手を引くとなると、事前に当然、各自治体との協議というふうなことは出てくると思いますが、将来的には、そこは代替のバス輸送であったりとかいうことの切替えというふうなことも想定していかなければならない、そんな時代が来るのかなというふうに思ってますので、その辺は沿線自治体の、豊岡市だけでなく、兵庫県交通政策課も、この件については、関西広域連合からJR西日本の長谷川社長のほうにも要望等されておりますので、その辺は足並みそろえて豊岡市としても取り組んでいきたいというふうに思います。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

ほかはないですか。

○委員（福田 嗣久） もう1回よろしいか。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今の石田委員の話の中で、さっき2,000人以下はテレビでやってましたんで聞いておったんですけども、どうおっしゃいましたかな、城崎ー浜坂間が506人で、浜坂以遠が798人か、いう話をされたようですけど、このJR西の管轄で斬り捨て御免になるようなところは、兵庫県下ではないんでしょうか。あるいはもっとは中国地方はもっと厳しいんですか、どうだったいな。今の話では、この浜坂、城崎が一番少なかったかな。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） この兵庫県内で申し上げますと、先ほどちょっと申し上げましたが、和田山駅から寺前駅までの間を申し上げました。

それと他の、但馬以外でのこともちょっと申し上げておきたいと思います。姫新線の上月から津山間、これが413人、すみません、これ2019年でした。申し訳ありません、ちょっと訂正させていただきます。まず加古川線、西脇市から谷川の間です。これが2020年度のデータを見ますと215人。先ほど申し上げました姫新線、上月から津山間、これが346人、それと姫新線の播磨新宮から上月までの間、750人、それと赤穂線、播州赤穂から、これ「ながふね」というんですかね、長船間、これ

が1,677人。以上になっています。

○委員（福田 嗣久） そうすると、城崎、浜坂も厳しいとこだな、分かりました。ありがとうございます。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。

○委員（浅田 徹） よろしいですか。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 今の関連してです。2月の16日にJRからそういうふうな申出があったということについて、もう少し、例えば詳しく、コロナだけじゃないというふうに思ってます。KTRも含めてですけども、例えばそれを、今後、自治体等というふうなことがあるわけですけども、これは豊岡市だけの問題じゃない、もちろんほとんど乗る利用者いっても、高校生等ございますのでね、そういうことについて、どこかこういう場を持つとか、これからの進め方について、やはりJRにこういう方向でとか具体的に次はいつするかとかいう、この協議の進め方とか、そういうことについて豊岡市の考え方っていうのは、今どのように進められておるのか、これもまずお聞きしときたいと思います。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） この件については、まだ正式にJRのほうから各自治体のほうに話が参ったわけではございません。今後、沿線自治体との協議を経てっていうような、社長の会見でもございましたので、行く行くそれは各福知山支社、今度、大阪の統括本部のほうになるんですけども、10月以降ですか、本年度、それ以降はそういったところからの調整のお話が参るといふふうに考えておりますので、当然豊岡市だけでなく、兵庫県下、兵庫県、それと、それぞれの沿線自治体、この山陰線となると、中には京都府にまたがる路線になっておりますので、やはり近隣の京都府も含めた取組、冒頭申し上げましたが、関西広域連合も、兵庫県はそれに沿って取り組みたいというふうな見解でしたので、そういったところ、歩調は合わせていきたいというふうに考えます。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） そうですね、やっぱりこれは関西も含めて、鳥取も含めてですけども、やはり山陰本線そのものの補完をどうするか、JRは、例えば業務運行でいくのか、それとも、多分まだ路線廃止までではないでしょうけども、運行、自治体とか、第三とか、しっかりその辺は連携を取られながら、豊岡、やっぱり観光地も持ってますので、中心になって早め早めの対応をお願いしたいと思ってます。その辺もちょっと心構えだけをお願いしたいと思います。

○委員長（上田 伴子） よろしいですか。

○委員（浅田 徹） ええですわ。ひとつよろしくをお願いします。ここまでにしときましょう。

○委員長（上田 伴子） ほかないですか。

○委員（浅田 徹） いや、今度は高規格道路です。豊岡自動車道路について、今、鋭意事業工事が始まってございます。私も以前行ったことがあるんですけども、現状でも、特に今これは国道426バイパス、戸辺羅山トンネル、議会でもありましたね。特に通勤時間帯も含め、非常に今でも渋滞をしていくというふうなこと、これから、これがもう少し先になりますけども、フルインター開通というふうなことになるわけですけども、26年ですね、さらには直接、非常に利便性は上がるけども、やっぱり豊岡病院という、非常に但馬の核病院があるっていうふうなことも含め、通勤時間帯、また診療時間帯の開始時間、同じ時間になりますね。その辺のところ、やっぱりどうしてもね、もう既にできた後でランプが来るというふうなことですけど、今、工事やってますけども、当初2車が、ランプは4車というふうなことで、何か口頭で説明を受けたんですけども、その辺の、例えば今のインターそのものが、最初は426、ところが、今度は空港線まで延びる、途中で工業団地ができる、病院のアクセスも途中にある。そういうことについて、今のインターから豊岡、豊岡病院のランプ側は何か2車が4車にというふうなことを聞いたようなもんで、その辺はどうでしょう。当初から4車。

○委員長（上田 伴子） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 豊岡病院の交差点、今の交差点から仮称豊岡インターチェンジまで4車というふうに計画は聞いております。今も現在4車で整備を、はい、都市決定も4車になっております。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（浅田 徹） ということは、4車で現在の戸辺羅山トンネルから出た、今はカーブしとりますけどね、そこには大きな交差点ができるというふうなことになります。今でもトンネルがあり、とにかく戸辺羅山トンネルから、つまり、駅西の市街地に向かう右折レーンが非常に短いわけですね。その辺に関して、またその交差点も含めて、やっぱり市としては現状の渋滞路も含めて、この際でないときまけませんので、トンネル開口部からもう少し、その辺をしっかりされんと。いや、新たに病院側も含めて4車で来ても、あとそのさばき方ですね、さばき方と、もう一つはむしろ入ってくるほうですね。つまり、市街地から入っていくほうの関係になるし、当然、出石方面からも来るとは思いますけども、やっぱりその辺の交差点について、しっかりと今の状況も踏まえて、市のほう、やっぱり改良というふうなことの意識を持ってもらいたいなっていうこと思うんですけども、その辺についてはいかがでしょう。

○委員長（上田 伴子） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） この件につきましては、今回の議会の一般質問でも出てまして、県のほうでは、今、渋滞交差点っていうのは位置づけられておりませんが、実際、朝夕見ると大分渋滞してるというような状況もありますので、議会でも答弁させていただきましたように、ちょっと現状の交通量なども把握した上で、県ともしっかり協議した上で進めていこうかなというふうには現時点では考えております。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 特に現況の、やっぱりそれまでに交通量調査等もされて、今の流れ、それをその部分でやっぱりやっていかないと、3回信号が赤にならないとか、そういう現象だけじゃなくて、しっかりそれまでに交通設備のための交通量調査、実際

に何台あるのか、やっぱりここ計画、数字、大事ですので、それを強く要望しときたいと思います。以上です。

○委員長（上田 伴子） すみません、私から。議会質問のときにも、あそこの病院のところの交通の循環については何か出てたと思うんですけども、あそこ、ちょっとだけ信号が時差になってますよね。あれで5台ぐらい行けるのかな、5台行けると思うんですけども。そういう時差について、信号の時差についてはあれですか、警察のほう、警察ってどうか、そこら辺で交通量を見て調整されているんですか、あれは。
どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） 時差調整は基本的には警察のほうでされますので、ちょっとどういう考えで今の時差の状況になってるか分かりませんが、それも含めて当然話ってどうか、実態を把握した上でしかるべき、警察に話をしないといけないということであれば、もうそういう話もしていきたいというふうには考えています。

○委員長（上田 伴子） 時差のと、それから信号が、こっちが曲がる時に矢印で何分かなるのとはすごく違うというか。時差のは本当にぱっぱと見て、何かいつ赤になるかなって見ながら通らんならんのと、やっぱり実際、矢印で緑になって信号の下につくのと違うんですけども、そんなんでいいんですね、下にもう1個信号つけて、優先的に。（発言する者あり）ああそうですか。（発言する者あり）もうやらない、それは。

○委員（芹澤 正志） ちょっといいですか。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○委員（芹澤 正志） 今の件は、前にもちらっと言いましたけど、もう既に警察に交通課のほうからちょっと調べて、県のほうに言って調べてもらって、時差なり矢印なりを検討、ただ、この道路ができるまでにするのか、それに合わせてするのかってところが今検討中みたいで。

○委員長（上田 伴子） ああ、そうなんですか。

○委員（芹澤 正志） うん。意外と警察から県に要

望を上げてもらったら、ちゃんと交通量によってはできますっていう返事をいただいているんで、多分、今の調査の結果によっては先に可能性もありますし、ちゃんと進んでいると思います。

○委員長（上田 伴子） ああ、そうですか。

○委員（芹澤 正志） はい。

○委員長（上田 伴子） いいですか。何かよう分からへんけど。

○委員（芹澤 正志） ちょっといいですか。

○委員長（上田 伴子） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） すみません。戻って、ノーマイカーデーの、今の月1回の市の職員さんの、要はバス利用というか、このノーマイカーデーの日の、当然、駐車場ががらがらになるぐらい利用されてるって状況なんでしょう。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） この市の職員の利用の云々が。

○委員（芹澤 正志） 職員さんも当然ノーマイカーデー、できるだけバスを利用しようって動きは当然あるんですよね。

○委員長（上田 伴子） 石田課長。

○都市整備課長（石田 敦史） ノーマイカーデー問わずe通勤っていうのは、職員には浸透させて、可能な範囲で取り組んでおりますので、当然このノーマイカーデーのときも含めて利用を促進していきたいというふうに考えています。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

○委員（芹澤 正志） はい。

○委員長（上田 伴子） ほかはないですか。

それでは、あと、各振興局のほうにちょっとお願いをしております、各振興局のほうで住民さんのご意見とか、振興局のほうでこのバス交通ほかの交通問題について今の状況とか課題とか、それぞれつかんでおられる範囲でご報告願いたいんですが。城崎からお願いします。

どうぞ。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎地域ですが、市政懇談会におきまして円山川右岸、

楽々浦地区側なんです、そちらの公共交通につきましては空白状態になっていると、改善を望む要望が上がっております。これにつきましては、都市整備部のほうから、平成29年にデマンド交通システムの実証実験を行いました、利用が少なかったと。その理由は、バスやタクシーではなく、福祉車両の利用が便利との意見があったということで、今のところ明確な手法はないですけど、城崎大橋の架け替え工事の進捗に合わせて何かしら検討していくとの回答がなされております。

補足ですが、この右岸地域、右岸側のアクセスにつきましては、玄武洞から下流側は、これまで道路の幅員が狭かったとか、また、現在の城崎大橋は大型車両の交通規制がなされているという、そういう課題がありました。この城崎大橋は、現在架け替え工事が行われておりまして、新しい城崎大橋は令和6年度に完成する見込みとなっております。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

次、じゃあ、お願いします。

どうぞ。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興局ではイナカーの床瀬線、三原線に代わる竹野南地区新交通モードの試行運転の実証実験利用者からの声を幾らか聞いております。アンケート結果のとおりなんですけども、家の近くで乗降できて便利、乗換えなく豊岡エリアまで行けるのがありがたい、また、一番遠い三原地区から豊岡病院までですと、タクシーだと9,000円かかるが、1,500円で済むのは納得感があるというような声を聞いております。以上です。

○委員長（上田 伴子） では、次、お願いします。

○日高振興局地域振興課長（中川 光典） 日高地域におきましては、住民の方からの個別のご意見、要望をお聞きしたことは特にありません。

ただ、日高振興局は、神鍋線乗って守ろう市民運動推進協議会の事務局を持っております。先ほど都市整備課のほうからの説明もありましたとおり、先週の3月16日に解散総会が行われたところです。そこに至るまでの乗って守ろうの推進協議会理事

会等では、様々な意見を頂戴しております。その様々な意見の一例としましては、運転免許を返納した高齢者にとっては、公共交通機関はなくてはならないものだということ。それから、一方で運転をしなくなった、あるいはできなくなった高齢者にとっては、そもそもバス停までの道のりが困難であると。また、それによりまして福祉タクシーのようなドア・ツー・ドアの交通網が求められるというような話も聞いております。それからまた、電車の時間とバスの時間がうまく合致してないというような意見も頂戴しております。

日高は以上です。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 出石地域では、あんまりそういうご意見を聞くことがないんですが、出石では、路線バスの全但バス交通とチクタクの奥山と奥小野がありまして、それを利用していただいております。以前、何年か前になるんですけども、チクタクの利用者の方が、利用範囲が出石地域のみなので、豊岡病院にまで行けたらいいなというふうなことはお聞きしたっていうことを聞いております。

その他なんですけども、意見じゃないんですが、チクタクの利用者の方が自分の都合のよい時間に利用ができ、もう大変便利だっていうふうなことをお聞きしております。

その他のバス交通については、今のところ、ご意見を聞いてはおりません。以上です。

○委員長（上田 伴子） どうぞ。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東振興局では、小中学校のあり方意見交換会において、スクールバス等通学交通支援の意見がありました。本市では公共交通対策は都市整備部ですが、スクールバスは教育委員会であり、遠距離の通学方法について検討する必要がある、少しでも負担が少なくなるよう調整したいと考えていると回答しています。

但東地域では、高橋地区にイナカー、合橋、資母地区では、地域が主体となり、チクタクを運営し、運行しています。イナカー説明会においては特に意

見等もなく、公共交通の運行に関し、住民の方にご理解、ご協力をいただいていると考えております。以上です。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

それぞれの地区において、それぞれイナカー、チクタク、また、路線バス等いろいろと地域の方の足を守っていると思います。またよろしく願いいたします。

では、今の振興局さんからのお話でのことにつきましては、よろしいですか、委員の皆さん。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） それでは、以上で委員会所管事項の現況についての報告については終わりましたけれども、この際、当局の皆さんから何かご発言はありませんか。よろしいですか。

それでは、ないようですので、当局の皆さん方には退席をさせていただいて結構です。ありがとうございました。

休憩しましょうか。じゃあ、休憩。

午後2時45分休憩

午後2時49分再開

○委員長（上田 伴子） それでは、再開します。

それでは、2番のところ、委員会の運営方針についてです。

前回までの委員会で決定しました委員会の重点調査事項を、Side Books上の本日のフォルダの中、次第等の資料、4ページに配信しております。特にご意見がなければ、前回と同様でいきたいと思っておりますけれども、重点調査事項についてご意見ありませんか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） それでは、次回の委員会で特に調査を進めていきたい項目があれば、ご協議願いたいと思います。どうですか。ないですか。

それで、そのこのところで、ちょっと次回というか、管内視察をちょっとこの路線バスとか、そういうバス路線、公共交通についての管内のところをちょっと見に行きたいという声がありまして、そのことに

ついてちょっとご意見がある方お願いしたいですけど、どうですか。

すみません。じゃあ、ちょっと休憩します。

午後2時51分休憩

午後2時54分再開

○委員長（上田 伴子） 休憩を解きます。

今、ちょっと協議いたしました管内視察については、委員長、副委員長が協議いたしまして、委員の皆様には後ほど連絡をさせていただきますので、4月になりますけれども、またよろしく願いいたします。

それでは、3、その他についてですけれども、この際、何かご発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） それでは、ないようでしたら、以上をもちまして、委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後2時54分閉会
